

家畜伝染病に係る防疫対策等の強化

奈良県における取組

【担当省庁】 農 林 水 産 省

現状と課題（背景・要望する理由等）

○飼養衛生管理基準の改正に伴う畜産農家の負担増加

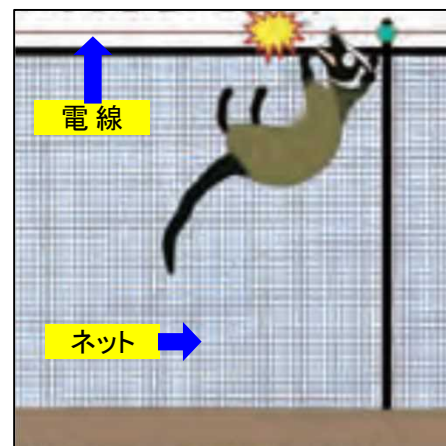
- 令和2年度に改正された飼養衛生管理基準に対応するため、畜産農家は、野生動物の侵入を防止するフェンスや防鳥ネット、更衣施設、消毒施設や食品残渣を利用した飼料(エコフィード)の加熱設備等の整備を行った。
- これまでの発生農場における疫学調査では、いのしし以外の野生小動物の侵入防止対策が不十分であったと指摘された例が多い。
- 農場バイオセキュリティの向上を図るため、これらの防鳥ネットの更新等の維持管理が必要である。また、野生小動物の侵入防止対策では、既存の防護柵に電気柵を複合的に設置する等の機能向上が必要となる場合がある。これらは、畜産農家にとって大きな負担となっている。



＜エコフィード処理設備＞
農林水産省 令和元年度
「エコフィード全国セミナー」資料より



＜野生動物侵入防止フェンス＞

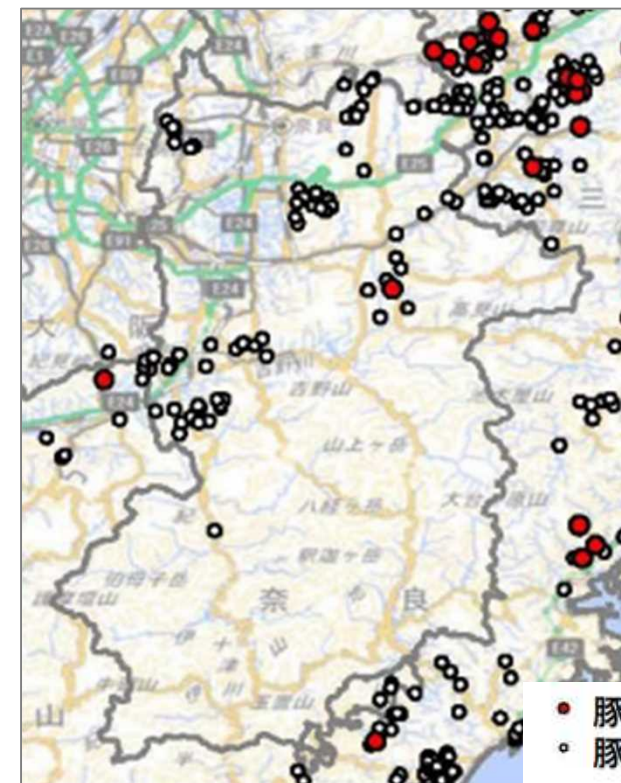


＜ネットと電気の複合柵＞

○迅速かつ簡便で精度の高い検査方法の確立

- 適時、適切な豚熱ワクチン接種を行うためには免疫付与状況検査が必要であるが、正確な検査結果を得るには、時間と労力のかかる中和抗体価の測定が必要である。

○野生いのししでの豚熱陽性確認事例（直近6ヶ月：令和7年5月21日時点）



農林水産省HPより

隣接県の県境付近でも野生いのししでの豚熱陽性が確認されており、県内の養豚農家は常に豚熱ウイルス侵入のリスクに晒されている。

奈良県における野生いのししでの豚熱陽性確認状況

令和2年度	： 27頭
令和3年度	： 12頭
令和4年度	： 4頭
令和5年度	： 5頭
令和6年度	： 9頭
合計	： 57 頭

国にお願いすること

○畜産農家を実施する農場のバイオセキュリティ向上に資する施設整備等に対し、長期的かつ安定した財政的支援をお願いする。同種・同能力のものの再度導入（いわゆる更新）、および既存の設備に追加で加工する場合の機能向上も対象とするよう、お願いする。

○適時・適切なワクチン接種の検討をきめ細やかに行うため、ELISA法の精度向上も含めた迅速かつ簡便で精度の高い検査方法の確立についての検討をお願いする。

【県担当部局】 食農部畜産課